

# E.T.C. Education Timely Change 「教育をタイムリーにチェンジする」



長野県総合教育センター通信

## しののめ

2017/06/12  
(平成29年06月号)  
第98号

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802 FAX (0263)51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

### 目次

#### センターからのお知らせ

- E. T. C. ロゴマークについて ・ 研修追加募集のお知らせ・・・ 1
- 学力を高める授業のポイント⑥（英語編）・・・・・・ 2
- 義初研 「初任研スタート研修」／高初研 「教科指導基礎研修Ⅰ」・・・ 4

### センターからのお知らせ

#### E.T.C.ロゴマークについて



E.T.C.ロゴマークは、  
長野県総合教育センターが目指す  
「主体的・対話的で深い学びへ  
つながる研修講座の実現」  
に向けての願いを表したものです。

長野県総合センターでは、今年のモットーを  
E.T.C.「教育をタイムリーにチェンジする」としました。

##### 【Education:教育】を

- ・子どもたちが自信を持って自分の人生を切り拓き、未来の創り手となるための教育へ
- ・学んだ知識や技能を生かし、自ら課題を設定し、解決していく探究的な学びを中心とした教育へ

##### 【Timely:タイムリー】に

- ・学びの主体、子どもたちに寄りそって
- ・次期学習指導要領への移行や、「学びの改革 基本構想」等の動向に合わせて

##### 【Change:チェンジ】する

- ・子どもたちの、「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるように

#### 研修追加募集のお知らせ

6月1日から希望研修がスタートしました。  
現在、追加募集を受け付けています。申し込みについては、センターホームページをご覧ください。

ご案内/アクセス	研修	学校支援
<p>新着情報</p> <p>2017/05/25 追加募集講座(5月25日追加募集申込システム)追加募集申込システム追加募集申込み手引追加募集講座一覧表</p> <p>2017/05/12 講堂・研修室等の利用方法を掲載しました。</p> <p>2017/05/09 センター通信「しののめ97号」を掲載しました。</p> <p>プレスリリース</p>	<p>研修講座案内</p> <p>指定研修</p> <p>希望研修</p> <p>生徒実習・学習合宿等</p>	<p>申し込みください。</p> <p>追加募集申込システムダウンロード</p> <p>追加募集申込み手引0525版</p> <p>追加募集講座一覧表0525版</p> <p>先端技術研修</p>

## 学力を高める授業のポイント⑥

### 英語編



今日の授業の最初では、「私の宝物」について、物を見せながらそれについて話をする活動「Show & Tell」で2人の生徒に発表してもらいました。

いいですね。私も Show & Tell や1分間スピーチをあらかじめ何人か生徒を決めて授業の最初や単元の終わりに取り入れていますよ。



でも、書いてきた英文を読み上げたり、覚えてきたものを一生懸命思い出しながら発表したりする生徒が多くて、気になりますね。それももちろん大事なんだけど、それだけでいいのかな。



確かに、それだと音読や暗唱みたいですね。



そうですね。事前に準備したものを発表させるだけでなく、「**即興で話す活動**」を取り入れましょう。実際のコミュニケーションの場面では、相手とのやりとりで**即時に応答**することを求められることが多いからです。「即興で話す活動」では、伝えたい内容が相手に伝わったかどうかを評価の対象とすることが大切です。英語の間違いを逐一直すと、生徒の話す意欲が削がれてしまいますので気をつけましょう。生徒が話したくなるようなテーマを設定して「1分間隣の人と英語で話してみよう。大げさにジェスチャーを使ってみよう。」など、生徒の相手に伝える意欲を引き出すようにしましょう。

なるほど。授業を実際のコミュニケーションの場とするには、いつも準備して発表するのではなく、即興で自分の考えをまとめ、言いたいことを相手に伝える機会を設けることが大切ですね。



“Pardon?”, “How about you?” など、話のやりとりで必要な表現は教えておいて、だんだん自然に口から出るようにしたいですね。また、ペアの相手を変えて話を楽しく広げていくなどの工夫も取り入れたいですね。



ただ、中学生の場合、知っている語彙も限られているし、具体的にはどのように授業の中で行っていけば効果的な活動になるのでしょうか。



生徒の身近なことや、小学校の外国語活動で扱った語彙を使えるテーマを選び、必要に応じて語彙や表現のリストを与えてもいいでしょう。2分間くらい個々に準備する時間をとり、キーワードを書いたり、整理したりします。その後で始めるといいでしょう。この活動は例えば、授業の最初に帯活動として行うことができます。その他、ペアで教科書の会話文を音読した後で、最後に1文ずつ加えて会話を続ける活動や、教科書の英文の内容を自分の言葉で要約し伝えるリテリングなどの活動でもできます。リテリングは、教科書の英文や表現をもとに自分の言葉で話すので、比較的取り組みやすいでしょう。このようにアウトプットすることで、生徒は表現できてない部分や自分に足りない部分に気づき、教科書をもう一度見て調べる活動が生まれます。高校生の場合には、即興型ディベートやミニディスカッションなど、さらに発展的な活動が考えられます。

リテリングは、絵や黒板のキーワードを見ながら話すと伝えやすくなりますね。どの活動もペアを変えて行くと1回目より2回目の方が上手に伝えられるようになり、生徒も自分の進歩を感じられて自信をつけますよ。



1回目が終わった時に、教師が「こんな表現を使っているペアがいてよかったよ。」など、生徒をほめながら一言コメントしたりするといいですね。

キーワードや Visual Aids を使いながら、「即興性や流暢さを育てる活動」を授業の中で継続的に行うことが大切です。あらかじめ準備しておいたスピーチなどの場合にも、スピーチが終わった後に、聞き手が話し手に質問をする活動を加えることができます。即興で話した後は、それを書いてみて、自分が英語で表現できなかった部分を補強したり、最初に書いた内容を修正したりする活動を位置づけることで「正確さ」を高める指導もできます。

“Show & Tell” を即興で行う中学生の例 「週末にしたこと」

(物の代わりに簡単な絵を2分で描かせます。)

“Hello. I want to talk about last weekend. I went to Matsumoto with my family last Sunday. We went to a shop to buy some clothes. There were many clothes there. I bought a T-shirt. We also ate spaghetti. It was fun. Thank you.”

高校生の場合には、話す内容を整理して論理的に話すことにも注意を払わせましょう。時系列で話すことや、抽象的なことから具体的なことへと話しをすすめることなどを心がけるとより相手に伝わる英語になります。

## 義初研 「初任研スタート研修」 平成29年4月18日(火)実施

教育公務員に求められる資質及び使命、学級づくり・授業づくりの基礎・基本などについて研修しました。

初任研1年次は、校外研修を16日間行います。そのうち、4日間を総合教育センターで行います。



「長野県の教師として期待すること」  
長野県教育委員会 教育長 原山隆一

### 原山教育長の講話より

- これからの子どもたちにつけたい力の一つは、起こった変化に対応する力、もう一つは変化そのものを創り出す力。
- 「スキルは努力によって獲得することができる」ととらえると「自分や世界を変えていける」というマインドセットになる。
- ゴールを設定し、そこから逆算していつまでに何が必要かを考えたい。
- 大人の規律を身に付け守ってほしい。
- 失敗経験は信頼の基盤である。失敗からしか学べない。

### 受講者アンケートより

- 自分には、「修正する」というプロセスが欠けていたことに気づきました。たくさんのフィードバックをもらうことをこれからの目標にし、成長のマインドセットをもって、柔軟に修正し、教師としてのスキルを高めていきたいと思いました。
- あまり関わっていない子がいるという私の悩みに対して、「その場でほめる」「今日はこの子と決めて重点的に見る」などのアドバイスをもらいました。待っているだけでなく、こちらが意識してかかわっていくことの必要性を感じ、明日からまた頑張ろうと思いました。

## 高初研 「教科指導基礎研修Ⅰ」 平成29年4月27日(火)実施

講義と研究協議を通して、教科指導、授業の進め方の基礎基本について確認しました。

初任研1年次は、共通必修研修を15日間、総合教育センターで行います。教科指導については、高校・中学校で、経験豊富な先生の授業を参観する他、模擬授業や研究討議を重ね、教科指導について研修します。



「育てたい学力と評価方法の結合」の講義の後、教科別分科会にて、教科の特性を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」にするための教科指導について確認しました。また、受講者同士、直面している課題について協議しました。

### 受講者アンケートより

- 講義「育てたい学力と評価方法の結合」の中で「パフォーマンス評価」について学んだ。獲得した知識、学力を実生活で活用できるように導ける授業を考えていきたいと思った。
- 「考えさせる・考えなくなる授業」が一番大きなキーワードだと感じ、教師側から全て見せてしまうのではなく、考える機会を作る必要があると感じました。
- 生徒主導での授業を組み立ててみたいと思った。グループワークを中心とする展開にした時、安心感を与えるものにしたいと思った。

